

# こまざわ 経済通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

## 経済学部同窓会会長挨拶

会長 大場 やすのぶ (昭和45年経済学部卒業  
世田谷区議会議員)



猛暑の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
今回の東日本大震災では甚大な被害が生まれました。改めて被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。同窓生の中にも被災された方がいらっしゃると思います。重ねてお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を微力ながら応援してまいりたいと思います。

復興に当たってはボランティア元年といわれた阪神・淡路大震災と比較されることがありますが、原子力発電の問題など、日本経済の根幹が問われる事態になったことは災害の影響の大きさを示しているものと思います。

そして大震災で先延ばしになってしまいました。TPP参加の議論など、わが国の真の発展のためにどうあるべきなのか、次の世代のためにも真摯な議論が待たれるところです。

同窓生にもボランティアとして関わった方もたくさんいらっしゃると思います。ボランティアのみならず「できることを通して支援しよう」とお思いの方もいらっしゃることでしょ。一隅を照らす是即ち国宝也といわれています。このようなボランティアや支援、復興へ向けての個々の頑張り小さな灯火であるかもしれませんが、その行動や思いは国宝といえます。私は自然資源を持たないわが国においては、このように学んだことを様々な形で行動し貢献できる人材が育つことが一番大切だと思っております。まさに本学の建学の精神「行学一如」ではないでしょうか。

私は世田谷区議会議員として地方行政に携わっております。自分自身としての行学一如を議員として実践していると自負しております。同窓会諸兄におかれましても、是非それぞれの行学一如を実践していただき、日本の明日に貢献していただきたいことを申し上げます。

最後になりましたが、今年は11月5日(土)に駒澤大学ホームカミングデーが開催されます。経済学部同窓会も同日に第6回経済学部同窓会総会を開催する運びとなりました。経済学部と母校発展のために、全力をあげてまいる所存でございますので、同窓会会員の皆様におかれましても同窓会にご参加いただきお力添えをいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

### 第6回経済学部同窓会総会開催のお知らせ

駒澤大学ホームカミングデーが開催される11月5日(土)に併せて、経済学部同窓会も第6回目の総会を実施することになりました。当日は他学部の同窓生もたくさんお見えになることと存じます。

3月の震災以降、日本社会では、同窓会、町内会や自治会のような地縁団体・コミュニティ組織がますます重要視されるようになってきています。今後、駒澤大学経済学部同窓会の果たす役割もより一層大きくなるでしょう。経済学部同窓会の発展に向けて、今年卒業されたばかりの同窓生も、毎年参加して下さっている同窓生の方も、そして今まで一度も同窓会に参加されたことのない方も、この機会にぜひ総会へお越しくださいようお願い申し上げます。

#### 記

日時 2011年11月5日(土) 11時30分より受付、  
12時より総会・懇親会  
場所 駒澤大学1号館401教場(総会)  
大学会館食堂(懇親会)



旧1号館・2号館



現在の1号館

# 東日本大震災と駒澤大学

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北地方を中心に甚大な被害を与えました。駒澤大学への影響について卒業生から問い合わせが寄せられていますので、簡単にご説明いたします。

当日、東京は震度5強の揺れに襲われましたが、さいわいキャンパス内での負傷者はなく、建物等に大きな損傷はありませんでした。しかし図書館や資料室や研究室では書籍が落下し、学生は隣接する駒沢公園に避難し、帰宅できない多数の学生が校舎で一夜を過ごしました。

震災の学生への影響の全容が判明したわけではありませんが、災害救助法適用地域に保護者の住所がある学生が約2000人、2011年度入学生の340人が該当しており、その影響が危惧される場所です。被災学生の経済的・精神的窮状を緩和するために、新入生の入学料免除、入学手続き期間の延長が実施されました。被災によって経済上就学が困難になった在校生には、授業料減免（全額、半額）の措置がとられます。また、「駒澤大学東日本大震災被災学生支援金」を立ち上げ、教職員はじめ広く社会一般より募金をおこなっています（本学ホームページをご覧ください）。経済学部教授会も50万円を拠出しました。

大学の年間スケジュールも大きく変更になりました。卒業式（3月25日）と入学式（4月2日）の式典は中止になりました。被災地出身学生やその他への経済的・精神的影響を考慮し、余震その他の不測の事態に備えて、授業は例年より約1か月遅れて5月6日から始まりました。7月1日～9月22日にかけては、昨年の使用最大電力の値（1時間単位）の15%削減を目標に節電がおこなわれます。

その他、震災からの四十九日にあたる4月29日に吹奏楽部のチャリティーコンサートが記念講堂で開催されました。震災や原発事故による学生および教職員のメンタルヘルスへの取り組み、夏場の電力不足に対応するクールビズも実施されています。



キャンパスでの震災義援金募集（3月25日）



震災後の経済学部事務室書架



震災後の経済学部事務室の様子

## 名誉教授シリーズ

### ソフトボールと谷敷ゼミ

駒澤大学名誉教授 里中 恆志



経済学部同窓会の会報（本紙）は毎年、ゼミ対抗のソフトボール大会（経済学部同窓会後援）の記事を掲載している。ソフトボール大会は経済学部恒例の年間行事として定着しているが、その育成は長年にわたり大会運営を担ってきたところの谷敷正光教授（教育経済論）の歴代ゼミ生の尽力にかかわるところが大きい。大会は毎年、テントの設営、道具やジュースの運搬、審判要員の確保等に谷敷ゼミの学生を総動員することで運営されてきた。とくに、谷敷先生個人の指導の貢献が大きい。

谷敷先生は忙しい先生であった。1970年代中頃、教職員組合結成当時は深夜に及ぶ団交が頻繁にもたれていたが、谷敷先生はいつも団交出席の先生方を送り届け、自宅には明け方に戻っていたという。団交成果であるトップレベルの給与体系が優秀な先生方を迎えることを可能にし、優秀な学生が集まって本学の発展に寄与したことは確実だろう。

先生は毎年13～14コマの授業を担当しておられた。同僚教員の倍以上の持ち時間数である。その他に課外の教職ゼミ等を担当されていたようで、どうやって時間をやり繰りされているのか恐ろしくて訊ける雰囲気ではなかった。谷敷ゼミは例年、伊豆半島の南端に近い松崎町でゼミ合宿をやっていたそうである。先生のほうは二部の授業を終える午後9時を回ってから駒澤大学を出発し、車を運転してその日のうちに宿に到着したという。普通なら速くても4時間を要する距離であるから、そのハードスケジュールに驚く。

長年にわたり、教員志望の学生を指導し、多数の本学出身の教員を全国に送り出してきた実績はすごい。採用していただいた学校に挨拶まわりし、後に続く後輩の就職のためのネット作りが大切であることを誰よりも感じておられた。挨拶の手土産が他の先生方に理解されにくく、どの予算から出すのか苦慮されることもあったようである。先輩と後輩のネット作りの必要が谷敷先生と同窓会とのかかわりを強めたのだろう。

1990年代、ソフトボール大会上位入賞のゼミチームに現金を出している時期があった。谷敷先生に言われて学部が大学当局と交渉し、教育後援会の予算から年10万円の支出を複数回引き出した。この予算は学生部の所管であったが、事務当局からはさんざんな批判を浴びた。学生の呑み代に消えることが分かっているのに教育後援会の資金を充てるは不適切というものと、経済学部だけに出すのは不公平であるというものだった。

その後、賞を現金で渡す方法はクオカードその他に代ったようであるが、受け取った学生達が即座に金券ショップに持ち込み、呑み代に変えてしまうので難しいところである。

歴代谷敷ゼミのこれまでの尽力に感謝するとともにますますのご健勝を祈りたい。

## 卒業生シリーズ

### 駒澤大学の思い出

経済学部経済学科 翠川 国雄（昭和56年3月卒業）

昭和52年に入学し、昭和56年に卒業するまでの思い出を書きます。

当時の入学試験は前期試験と後期試験に分かれており、私は後期試験を受け合格しました。倍率17倍という狭き門でした。実は早稲田大学や上智大学へ行きたかったのですが、その各大学は入学金、授業料が高く経済的余裕がなかったのです。そこで金額の安い、そして環境の良い大学を探したところ駒澤大学に出会ったのです。

当時、渋谷駅から大学までの交通手段は都バスであり、半年後に東急の地下鉄（新玉川線）が二子玉川駅まで通じ、とても通学に便利になりました。隣接して東京オリンピックで建設された駒沢公園があり、講義の空き時間、昼休み、講義終了後にテニスの壁打ちをしたり、散策をしたものでした。学食や図書館や軽食のパオがあったり

して、充実した毎日をお過ごしことができ感謝しております。

在学時、学長は大久保道舟先生で、学部長は西村紀三郎先生でした。私は西村先生のもと3年間ゼミで財政学を教えていただきました。山梨県大泉村合宿（2年）、千葉の館山市の合宿（3年）、夏の清里合宿（4年）では厳しく絞られましたがとても有意義でした。夜には談笑しながらこれからの夢を語りました。ゼミで一緒だった星野篤君、高橋典久君は卒業後、駒澤大学職員になりましたがご活躍でしょうか。現在はゼミ対抗ソフトボール大会になっておりますが、当時は玉川校舎のグラウンドで軟式野球のゼミ対抗戦であり準優勝しました。

その他の専門科目では、遠藤孝先生の「会計学」、斉藤寿先生の「憲法」、雨宮新也先生の「民法Ⅰ部・Ⅱ部」、戸田武雄先生の「経済原論」を受講しました。戸田先生は高齢にもかかわらず講義中一度も椅子に座られませんでしたが。森岡仁先生の「人口論」、出牛正孝先生の「マーケティング」、石名坂邦明先生の「保険論」、永田正臣先生の「ヨーロッパ経済論」、池田健先生の「貿易論」、渋谷隆一先生の「銀行論」も受講しました。また多くのゼミがあり自由闊達な学習をしておりました。

教職科目では谷敷正光先生のもと「教職ゼミ」を立ち上げていただき、夜遅くまで教員免許取得や教員採用試験のための授業を行って緊張ある時間を過ごさしてもらいました。このゼミは夕方からの授業であり、アルバイト中心の生活であった私には時々出席するのが精一杯で、先輩幹事の方から勉強の遅れを指導してもらいました。先生の行き届いた御指導は、私にはこれまでの、そしてこれからの肥料となっています。

保健体育の授業では森本葵先生（元陸上800m日本記録保持者）にすばらしい授業をしてもらい、今でも大変役立っています。同級生にマラソンで活躍した阿部君がおり、彼の真面目さ（講義に休まず出る姿勢）を自分も見習いました。

ドイツ語の授業では酒井先生が良く分かるよう指導してくださり、学ぶことの楽しさを感じました。今ではほとんど忘れてしまいましたが、「ゲーテンターク」（こんにちは）、「アイム リッヒ リーベ」（私はあなたを愛しています）という言葉は今でも使っています。

私も仕送りのない中、日本育英会特別奨学金を受け、アルバイトをしながらよく体が持ったと回顧しています。私の学業成績証明書を母の弟である柳澤勝輔（世界最高峰チョモランマ＝エベレスト8850mの最高齢登頂者）に見せたところ、取得単位の多さに驚かれました。

当時は学生運動活動家も数十人おりデモ行進もありました。東都大学野球で太田監督のもと中畑清、二宮至、平田薫の駒大三羽ガラス、石毛、野村、新井、河原さんなど多くの人が活躍し常勝時でしたので、講義は休講として全員で神宮球場に応援に行き、校歌、応援歌を歌い感動したことを今でも忘れません。また、今回の東北震災で被害に遭われた友人たちに全く連絡が取れない状態です。とても心配でなりません。

本当に駒澤大学で4年間学ばせていただいたことに感謝し、私の人生の貴重な宝物であることを再認識しております。

頑張れ日本！ 頑張れ駒澤大学！

胸を張ってこれからの人生を生きて行きたいと思っております。駒澤大学関係者、学生の皆様の活躍を遠くより見守ってゆきたいと思います。



西村ゼミ夏季合宿（昭和54年）



翠川国雄氏（経済学科昭和56年卒業）提供

# ゼミ紹介

## 石川（純）ゼミ

私たちのゼミでは、単なる会計学の学習ではなく社会経済における「生きた会計」を学習するため、「時事会計」を重視した授業を展開しています。そして、会計を通してあらゆるものの本質的な側面が「見えてくる」とこと、「時代を読み解く力」を養うことを目標にして、日々、学習に取り組んでいます。授業では、日本の時事問題が書かれている本を使いグローバル化している世の中で日本の情勢等を4、5人のグループで毎週テーマを決めレジュメを作り発表をしていきます。一方、会計の学習として現行の企業会計で一般的に使われている「複式簿記」に焦点を当て、様々な観点から考察し相対化することにより「複式簿記」の本質面を見ていこうとしています。なので、こういった学習というのは他では学習することが難しく、そういうことが出来るようになってくると日常の一つ一つのことに対して違った視点で物事を捉えていけるのではないかと思います。



授業以外の活動として、昨夏に千葉県の子に赴き2、3年全員で2泊3日のゼミ合宿を行いました。合宿では、先生を含め非常にテニス好きな学生が多いため、全員でテニスをやることにしました。ゼミ生の中には、テニス部の学生がいたりしてテニスが上手な人が多くいます。そんな中、特に先生の若者には負けないぐらいパワフルな動きにはみんな感心させられました。夜には、浜辺でバーベキューや花火などをして楽しむことができ、学生生活のいい思い出になったと思います。そのほか、ソフトボール大会などを通じてゼミ全体で一致団結して楽しむことが出来たと思います。また、ゼミ内の縦関係も良好だと思えます。

以上のように、私たちのゼミでは一年の間にいろいろなことを自主的にやったり考えてみたり交流の幅が広がったりと自分たちがどう成長していったのが分かり、次の一年で自分がどう変わっていくのが楽しみになっていくゼミだと思えます。

さて、石川先生の近況もお知らせします。先生は、現在、放送大学の新たな番組作成で奔走されています。あるときは千葉幕張のスタジオで、またあるときはロケのインタビューで各地に行くなど、多忙な毎日のようです。ゼミOB・OGの皆さんも、来年4月からの新たなテレビ番組で会うことができます。どんなお話しをしているか、たまにのぞいてみてはいかがでしょうか。

商学科3年・ゼミ長 三澤寛

## 北口ゼミ

北口ゼミでは税務会計論について学んでいます。税務会計論の内容は奥深く、租税制度は年々変化するものなので勉強自体は大変なのですが、通常耳にするニュースのなかには、租税に関するニュースや有名な租税事件などゼミでの勉強内容と直結しているものが多々ありますので、身近に感じられ、とても学びがいのあるテーマだと思っています。ゼミでは、そのような身近なテーマも取り上げながら、生徒間でのディベートを主として、先生の話と交えつつ学んでいます。

北口ゼミでは最終的には税務会計論について学びますが、2年生からいきなり税務会計論について勉強することは難しいため、まずは、基礎的知識として財務会計の勉強から始まります。2年次に財務会計から学んでいなかったら、税務会計論の内容をきちんと理解することも、楽しく話し合いながら学ぶことができなかつたと思います。



ゼミでは、毎年、学外活動（年2回）と合宿（年1回）を行っています。この合宿は、いつも勉強しているゼミ生とのさらなる親睦を深められる機会でもあります。先輩・後輩間のコミュニケーションをはかる良い機会でもあります。毎年、学年混合での勉強会をしたり、ご当地ならではの観光スポットを巡ったりと、内容の濃い楽しい時間を過ごしています。

また、北口ゼミは、勉強だけではなく学部の各ゼミ対抗のスポーツ大会にも参加しています。各ゼミが一番力を入れているのがソフトボール大会です。去年の北口ゼミは野球経験の少ない人がほとんどでしたが、楽しんでプレーをすることができ、奮闘しました。また去年開催されたフットサル大会では、ゼミ生の勝ちたいという思いが実り、準優勝することができました。

このように、北口ゼミでは、勉強するときは真面目に取り組み、運動するときは本気で運動をするというメリハリのきいた充実した内容で1年間を過ごしています。僕たちゼミ生は、目標に向かい皆で一緒に学びあえる環境をととても嬉しく思い、先生には日々感謝しています。

商学科3年 細井章良

## 小西ゼミ

小西ゼミは2年生16名、3年生15名、4年生13名の計44名の学生が在籍しております。

多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義を研究のテーマとしており、世界金融及び世界経済に関して勉強しています。テーマの範囲がとても広いため幅広い教養が求められます。2年生は現代の国際金融の専門書をを用いて将来的に望ましい企業金融のあり方や金融システ

ムの枠組みについて考察、討論を行っております。3年生は“Economist”など英語の資料を用いて多種多様な世界経済のトピックスについて報告、討論を行っています。ゼミでの研究は自主性に富んでいて、お互いに切磋琢磨しております。4年生は各自の研究テーマにそって卒業研究を作成します。夏の合宿では2、3、4年生が集まり合同でワークショップを行いました。学年の垣根を越えた刺激的な交流をしております。



小西先生はゼミ生に対しとても理解がある方だと思います。勉強、就職、恋愛などに苦悩し精一杯もがいているゼミ生の話に耳を傾け、先生として、時には母親(?! )としていつも適切なアドバイスを頂いております。そんな小西先生の下に集まったゼミ生は自分も含め本当に個性が強く、変わり者が多くいますが、小西ゼミという一つ屋根の下、共通の目標、意識、目的をもち刺激し合っています。将来、大学生生活を振り返った時、小西ゼミで過ごした3年間は大変だったけど充実した日々だったと懐かしく思い出すことでしょう。

経済学科3年 松本慎之介

## 瀬戸岡ゼミ

『朝日新聞』などが瀬戸岡ゼミの活動を掲載

『東京新聞』および『朝日新聞』に瀬戸岡ゼミのサブゼミ活動が掲載されました。

通常のゼミ活動のほかに、例年ゼミ生たちの自主活動として立ち上げられ実施されている6～10個のサブゼミのひとつが昨年度は「若者の消費離れ」の傾向の研究をテーマにとりあげましたが、もうひとつ「若者の政治離れ」をとりあげたサブゼミもありました。そのグループが研究活動の一環として世田谷区選挙管理委員会に調査・取材に出かけたのがきっかけとなって、若者たちに投票を呼びかけるポスターを選管とともに作製することになり、じっさい学生たちの作品が世田谷区全域に貼りだされました。上記各紙は、それをとりあげたもの（それぞれ4月15日、17日掲載）。そのことで、本学の教育後援会から賞を受けることにもなりました。

ところで瀬戸岡ゼミは、今年が創立35年目。現役のゼミ生は各学年あわせて、ざっと140人。日本最大のゼミです。多い人数を生かして、数々の企画をつぎつぎと実施し、いまま活動は年々活発化の一途をたどっています。今年度のサブゼミのなかには、震災を受けて、寄付にかんする研究をするグループも結成されるなど、ますます多彩になっています。各種スポーツの勝ち抜き戦大会をゼミ内だけで実施できるのも、このゼミならでのこと。今年度の日本学生経済ゼミ大会の全国大会（インター大会）は札幌で開催されます。ここにも日本最大の発表件数と人数をもって参加すべく、目下準備に入っています。

現代史ゼミ、クラシック音楽講座、日本語を考える講座（もともと、わがゼミの大学院生対象の補講としてはじまったもの）も、ますます盛んになっています（現代史ゼミには毎週20～30人、3ヶ月に1回のクラシッ

ク音楽講座および日本語を考える講座の5月の例会にはそれぞれ約60が参加）。参加者は各大学の大学院生のほか、各界の研究者やサラリーマン、OLたち。ゼミ卒業生たちも時間がゆるせばご参加ください（詳しくは本学ホームページ「コマプロ」内）。

私（瀬戸岡）は、東日本大震災の被災地の現場を視察したほか、5月にアメリカで開催された世界政治経済学会に出席し、大震災と原発事故に言及する研究報告をしてきました。

## 中 済 ゼ ミ

当ゼミは、ゼミ生個人が自由に研究テーマを設定し、研究を通じて問題点や課題を解決していくための論理的思考を身につけていくことを目的としています。また、個人研究に加え、各大学のゼミナール対抗の討論会（インター大会）にも毎年参加しており、今年度も11月13日（日）に中央大学多摩キャンパスにて開催される大会に向けて、2・3年生合同で毎週グループワークを行っています。そのほか、夏・冬合宿や経済学部ソフトボール大会などのイベント参加を通じて、学年を超えてゼミ生同士の交流も深めています。



ソフトボール大会



冬合宿



ゼミ連スポーツ大会

# 経済学部同窓会長賞を9名が受賞

平成22年度卒業式は東北地方太平洋沖地震のため中止になり、学位記授与式のみが教場でおこなわれました。経済学部では経済学科（フレックスA、Bを含む）427名、商学科289名、現代応用経済学科140名、合計856名の卒業生が誕生しました。

在学中、勉学に励み、人物にも優れた下記の9名に経済学部同窓会長賞として賞状と記念品（万年筆）が授与されました。

**経済学科：**



菊間 理紗



清水 義正

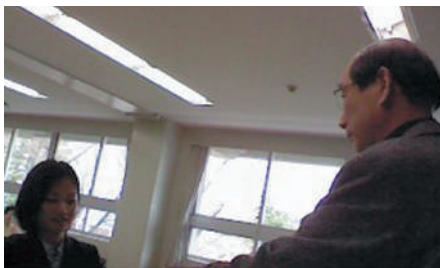


鯨井 克久

**商学科：**



柳 苗苗



上田 裕里江



佐藤 那都希

**現代応用経済学科：**



矢野 沙也加



足立 沙織



村上 雄大

## 経済学部の有望スポーツ選手紹介

駒澤大学職員 **大沢 隆司**（昭和48年卒・陸上競技部OB）

今年の5月5日に陸上競技部新入生歓迎会が玉川ホール（駒大玉川グラウンド内）でOB・OG、後援会の方々と交えて行われました。15名の新入部員のなかで経済学部部に4名の新人が入りました。大八木監督のもとで箱根駅伝に出場し優勝を目指していきたくと抱負を語っていました。それにはまず、夏の合宿練習を乗り切り、三大駅伝の最初の出雲駅伝にデビューすることが必要になるでしょう。4名の今後の活躍を期待したい。

**新人紹介**

黒川 翔矢	現代応用経済学科	作新学院高校（栃木）卒
中村 匠吾	経済学科	上野工業高校（三重）卒
西澤 佳洋	商学科	西武台千葉高校（千葉）卒
村山 謙太	経済学科	明成高校（宮城）卒

**駅伝日程**

10月10日	出雲駅伝
11月6日	全日本大学駅伝（伊勢）
新年1月2・3日	箱根駅伝

## 訃報

元経済学部同窓会総務部会長 **橋本 貞和氏**



駒澤大学経済学部同窓会で長年総務部会を支えてこられた橋本貞和氏が平成23年5月8日、逝去されました。享年80歳

橋本氏は昭和28年、駒澤大学商経学部を卒業し、川崎市立住吉中学校に赴任されました。その後、33年間教諭として活躍の後、川崎市教育委員会に移動し、主導主事、教育センター第二研究室室長などの要職に就かれました。平成4年3月退職されるまでの6年間にわたり教育現場の指導と教育の研究に尽力されました。その間、神奈川県公立中学校道徳教育研究会で副読本『みんなで生き方を考える道徳』などの刊行、文部省『中学校指導書 道徳編』の作成など教育の発展に多大な貢献をされました。

退職後は川崎市総合教育センターで相談員を勤めながら、経済学部同窓会の総務部会において顧問的役割を果たされ、同窓会の維持・発展に尽力されました。同時に、本学の就職部主催「教職講座」で講座担当講師として、教職志望の学生指導にもあたり、温厚で熱心な先生として慕われてきました。

駒澤大学をこよなく愛され、母校を思う熱い気持ちを経済学部同窓会発行の「こまざわ経済通信」に何回も掲載されました。晩年、体調を崩して入院され、手術もされたそうですが、手術室に向かう直前に「青春花と咲にけり……駒大、駒大、駒大健児 燃えよファイト、轟けエール 駒大、駒大、駒大健児」と応援歌を歌って臨んだとご家族からお聞きしました。

ここに哀悼の意を表し、橋本氏のご冥福をお祈り致します。

経済学部教授 谷敷正光

## 経済学部同窓会事務局からのお知らせ

### 1. 会員の増加にご協力を

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたら入会をお勧めください。入会手続きは氏名、卒業年度、卒業学科、住所、電話番号を記入のうえ、下記の郵便口座に同窓会費を納入することで完了します。

\*会費：年会費2,000円×3年分=6,000円（会費は3年分を一括納入します）

◎郵便振替口座

加入者名： 駒澤大学経済学部同窓会

口座番号： 00190-1-614809

### 2. 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実をはかるため卒業生の原稿を募集しております。積極的なご投稿をお願い致します。

・論題：自由

・字数：800字以内

・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局

\*なお、原稿の採否は編集委員会にご一任ください。

### 3. ホームページについて

「駒澤大学経済学部」のホームページ (<http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/keizai/>) から「経済学部同窓会」のページを見ることができます。

### 駒澤大学オリジナルグッズの販売を始めました！

- ・お菓子は有名店とコラボレーション!! ぜひご利用ください。
- ・ブルゾン 1,900円 紫のブルゾンを着て、駅伝の応援をしましょう!
- ・ネクタイ 3,900円 3種類 駒澤大学のロゴマーク入り2色又は法輪マーク入りの中からお選びください。
- ・クッキー 900円 16枚入り (パティスリー ナオキとのコラボ)
- ・煎餅 1,000円 8枚入り (銀座松崎煎餅とのコラボ)
- ・チョコレート 900円 12個入り (メリーチョコレートとのコラボ) 1,400円 18個入り
- ・ワッフル 900円 7個入り (マネケンとのコラボ)

近日中にホームページに写真を公開いたします。

駒澤大学会館246 1階受付にて販売中です。遠方の方は下記連絡先までメールにてご連絡ください。

その他、11月のホームカミングデーでも販売致します。

☆お取扱いお問い合わせ先☆

(株)KUサポート (駒澤大学100%出資事業会社)

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-17-18 駒澤大学会館246 5階

Tel:03-3418-9525 Fax:03-3418-9763

E-mail:inro@ku-support.com URL:http://www.ku-support.com

## 〈平成22年度卒業新入会員紹介〉

大久保 翔平、柿坪 久美子、細貝 優、横道 芳樹